領域「人間関係」　　―集団遊びの中で育つものとは
わらべうた遊びや伝承遊びを通して考える―

柴田学園大学　短期大学部　保育科　　佐々木　美子

TEL0172－32－6151　　FAX　0172-32-6153

顔写真等
(希望者のみ)

e-mail　y-sasaki@shibata.ac.jp

Web 等(該当するものがある方のみ)

キーワード	幼稚園教育要領　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿　領域「人間関係」幼児教育　授業研究　わらべうた遊び　伝承遊び　鬼遊び

幼児教育は幼稚園教育要領（保育所保育指針）に基づいています。

これまでの幼稚園教育要領にある５領域（「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」）に、新幼稚園教育要領（平成 30 年改定）では新たに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が加わりました。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは、（1）健康な心と体（2）自立心（3）協同性（4）道徳性・規範意識の芽生え（5）社会生活との関わり（6）思考力の芽生え（7）自然との関わり・生命尊重（8）数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚（9）言葉による伝え合い（10）豊かな感性と表現です。この中で、領域「人間関係」を通して育まれると思われる姿は「自立心」「協同性」「道徳・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」です。この４つの姿がどのような遊びや活動、場面を通して、子どもたちに育まれるかについて考えます。

幼児教育は幼児の自発的な活動としての“遊び”を通して総合的に行われるものです。たくさんの遊びがある中で、わが国で昔から行われている集団遊び（わらべうたや伝承遊び）に着目し、子どもの年齢や発達段階にそった集団遊びは何か、集団遊びの中で育まれることは何かなど、幼稚園の子どもの姿や幼児教育の現場での経験を通して考えます。

中学校での
「わらべうた遊び」

「なべなべそこぬけ」

「はないちもんめ」